

現場紹介・工事進捗状況



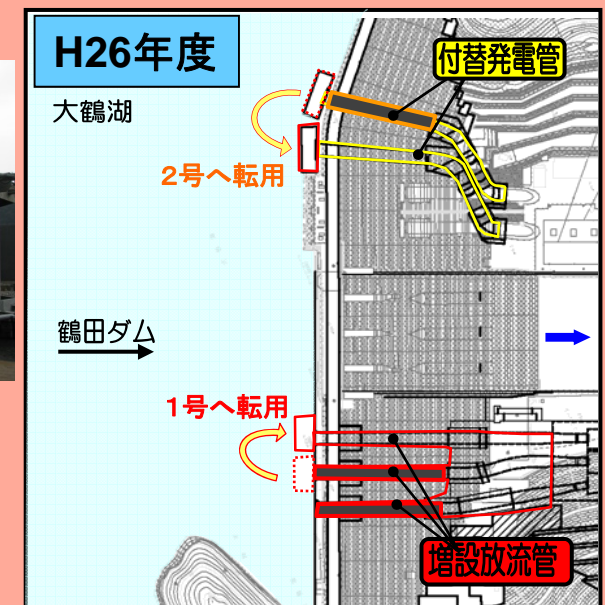
● 仮締切撤去(転用)

制水ゲートを設置したのので、仮締切の撤去を行いました。

設置していた3基の仮締切のうち2基は残りの2本に転用するため、一度撤去し水密ゴム等の交換をしてから、今年度穴あけ箇所を設置を行いました。



(撮影: H26.02.20)



現場紹介・工事進捗状況

② 放流管組立の様子



発電管運搬の様子

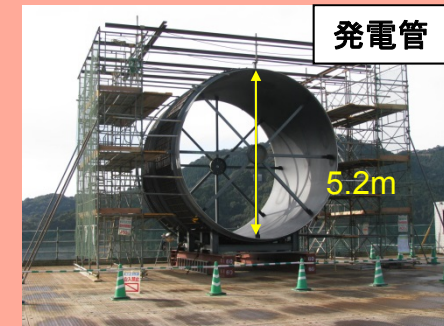
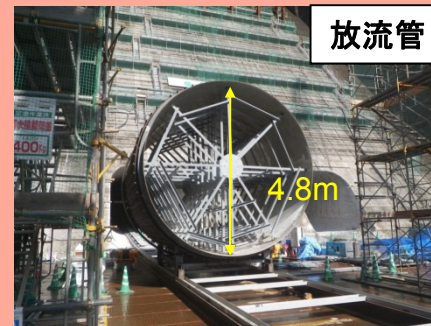


放流管（発電管）

この放流管（発電管）も仮締切やベルマウス等と同じように工場で造られトレーラーを使い、現地まで運ばれてきます。

分割して運ばれてきた放流管（発電管）をダム近くの組立ヤードで溶接し一つの管にします。

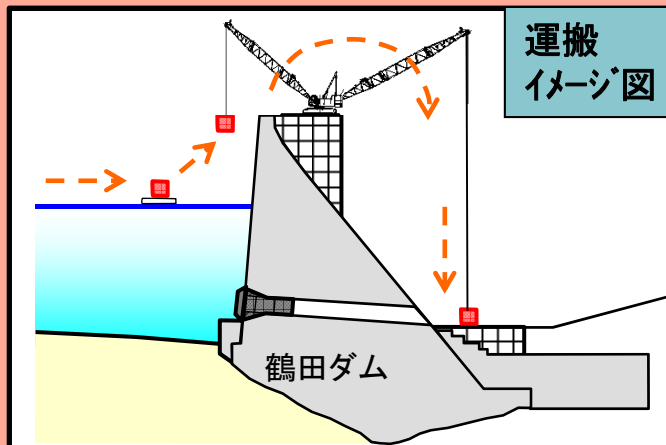
管の大きさは放流管が直径4.8m、発電管は直径5.2mあります。



現場紹介・工事進捗状況

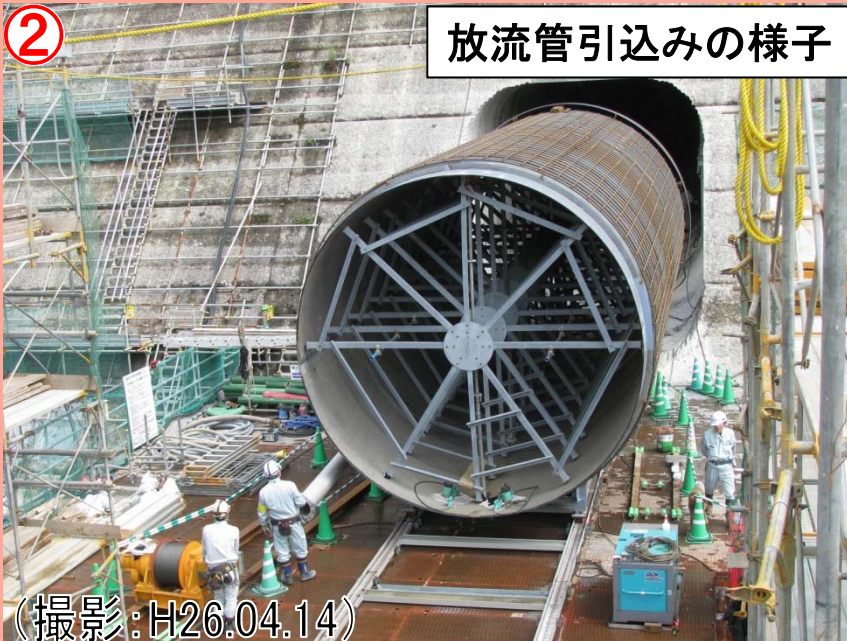
② 発電管運搬

少し変わった管の運搬方法をご紹介します。
発電管は上流側のヤードで組立てられた後、船を使ってダム湖を渡り、天端のクレーンを使って下流側の構台まで運ばれます。



②

放流管引込みの様子



(撮影:H26.04.14)

放流管(発電管)設置

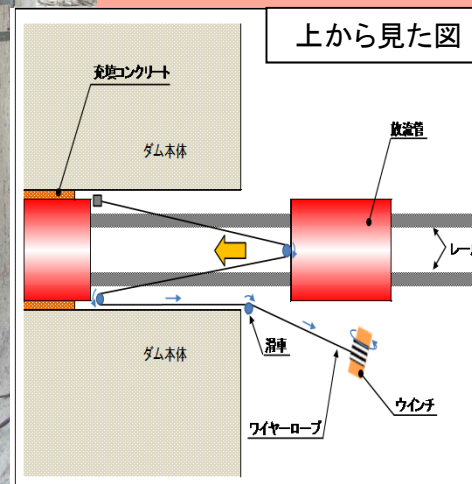
設置する際、予めトンネル内に引いておいたレールの上に乗せた管をウインチという機械を使い、機械に付いているワイヤーを巻き上げる事で、管は後ろ(堤内)へ移動します。

設置後、ダムの中で溶接を行います。

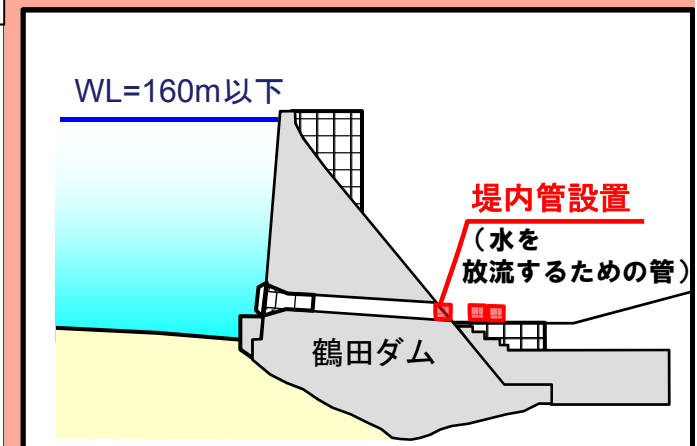
放流管引込み後



(撮影:H26.04.14)



上から見た図



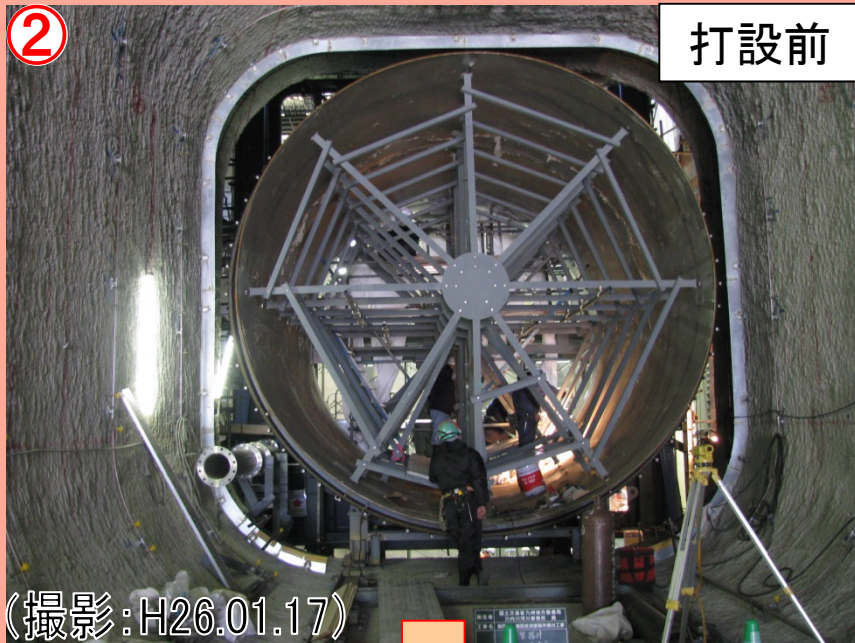
WL=160m以下

堤内管設置
(水を放流するための管)

鶴田ダム

②

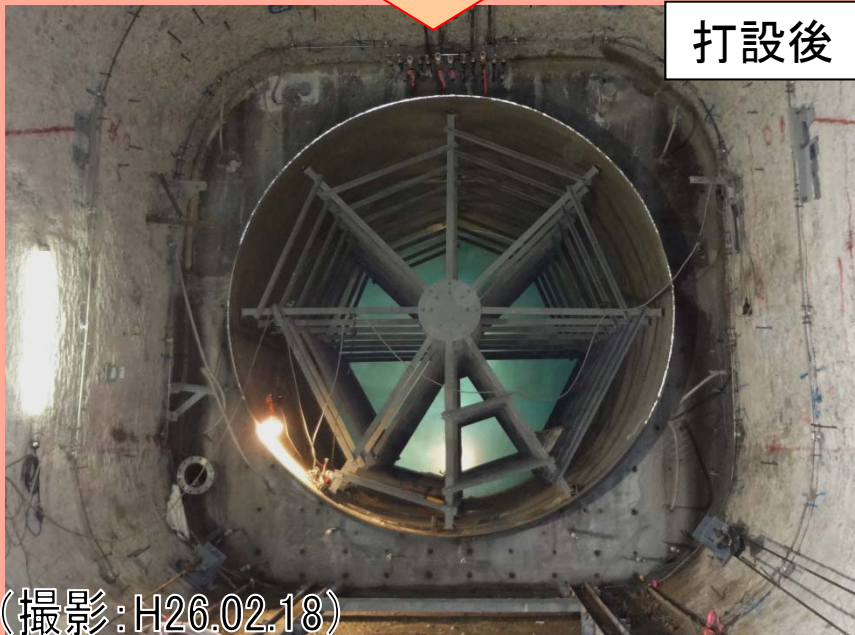
打設前



(撮影:H26.01.17)



打設後



(撮影:H26.02.18)

• 充填コンクリート

放流管を設置した後、ダム本体と放流管の間にコンクリートを充填する(隙間を塞ぐ)作業を行います。

この作業(放流管設置→充填コンクリート)を繰り返して、放流管をつくっていきます。

